

上越寮友会定期総会
初めて東京で開催

葛飾区

大滝恵三（大手町出身）

約一世紀にわたり多くの有為な人材を輩出してきた上越学生寮は、その使命を終え、平成十一年末に幕を閉じ、跡地が葛飾区の防災公園となり、その売却資金二億円は上越学生寮奨学金基金として上越市に寄託し、その奨学制度は同十三年度に充て足した。育英事業としての上越学生寮の精神は、形を変えて引き継がれている。同十二年三月、解散式典を行った際、寮出身者による上越寮友会（会長＝松枝迪夫弁護士）が設立された。Ｊネットには尾崎副会長はじめ寮出身者も多い。

席者は首都圏在住者中心に過去最多の三十六人。Ｊネット会員では杉臣武理事、水嶋晃監事や九十歳の上金忠夫さんも。上越商工会議所会頭の田中弘邦さんも出席予定だったが、直前に公務が入りキャンセルとなったことは残念だった。

午後三時から始まった総会議事は滞りなく終了。続く卓話二題はいずれも上越地方に関わる話だったので概要を紹介。

OB卓話「平成の大合併と上越市」

講師は上越市元職員の歌代公夫さん。

平成の大合併は平成十一年に始まり、同十七年度末でひと区切りとなった。市

町村数は三三三から一八二〇に再編された。新潟県も順調に進み、一二市町村が三五となった。佐渡郡市十市町村の佐渡市ははじめ妙高、魚沼、阿賀野、胎内

など六つの新しい市が誕生。一方、新井、新津、白根、栃尾、両津など由緒ある市名が消えた。また新潟市は、周辺十四市町村を編入、人口は八十万強となり、本年四月、政令指定都市に。

上越地域では、二十三町村が上越市、糸魚川市、妙高市の三市だけとなり、東頸城の松代町と松之山町は十日町市に編入。平成十七年一月、周辺十三町村を編入して発足した新上越市は、東京二十三区の面積とほぼ同じ、県下最大の面積となった。十三町村の特別職（首長、助役

収入役 教育長 五十二人全員が退職し、町村議員は新議員四十八人となり、経費は大幅節減された。平成二十年四月、十三区市議十八人、旧上越市議三十人の市議選が実施され、同二十四年には十三区、旧上越市の枠が無くなり、三十八人位の上議定数の選挙が実施される予定。

なお、旧上越市が誕生したのが昭和四十六年四月二十九日。旧高田市、旧直江津市の対等合併は、当時としては自治史上初めてであった。

特別講演「高田平野の活断層」その2

講師は東洋大学社会学部教授の渡辺満久さん。上越市日の出町生まれ、現住所も同市南本町二丁目。昭和五十年高田高等学校卒、東京大理学部、大学院で地理学を

研究博士号を取得。専門は地形学で「高田平野の古地震研究」が認められ、平成十六年、十七年の二年続けて上越学舎に研究支援費を交付された。この講演も前年に続いての研究成果の報告となった。同氏は上越周辺では活断層の研究者として知られている。

同氏の話はスライドを混じえて約四十五分。私には理解し難い部分も多かったのであとで話の概要を書いていた。まず一般論、活断層とは何か。プレートが移動する力で破壊してずれる所で、大きな地震が起る。活断層地域で考えておかななくてはならないことは①地震被害の軽減策を検討することが必要②軟弱地盤地域では揺れの被害を想定した耐震構



森鷗外居住の跡

造を取り入れる必要あり③次の地震が切迫しているかどうかを見極めて、効率的に手当てしていくことが現実的で効果的。

では高田の活断層は①高田平野は活断層地域の典型。従って同地区では大きな地震が起こると考えておくことが必要。

②被害の集中域は、活断層近傍と平野内の軟弱地盤地域に特定できる③同平野の東縁活断層は、二五〇〇年程度の間隔で地震を発生してきたと推定、十七世紀から十九世紀にM7クラスの地震を起こしたのが最新なので近い将来、地震を引き起こす危険性は小さい④西縁活断層は、十八世紀にM7クラスの地震を起こした可能性あり、活動間隔は最短で千年と推定。

⑤西縁活断層の活動履歴は今後も調査の継続が必要。全体としては次の地震が切迫している可能性は小さいが、今のうち長期的スパンの中で被害軽減策を考えておくことが重要。

懇親会に奨学生を招待し激励

六時半からの懇親会には、初の試みとして奨学生を招待した。もともと折りこふれて奨学生を招待して激励しよう、ということは、当会の設立趣旨にもなっていた。住所判明者二十五名に案内を出し、出席者は男子三名、女子一名、いずれも旧上越市の出身で、東京大理学部、慶応

大法科大学院、東京農業大、東京農工大大学院（女子）の各学生。もちろん渡辺教授も同席。松枝会長は冒頭「奨学生の皆さんには、上越学生寮の後身・上越寮友会の準会員の気分でしたちの仲間になっていただきたい」と挨拶。

京懐石のフルコースに舌鼓を打ちながら、或いは一献交わしながら全員の近況報告。奨学生には自己紹介や今後の抱負などを語ってもらう。寮友は近況よりも学生寮時代の思い出やエピソードを話す人が多く、奨学生には学生寮の雰囲気的一端を味わってもらえたのでは。ゲストの五人とはこの懇親会後にお別れ。

天然温泉を満喫して周辺の散策へ

寮友の宿泊は二十名。翌朝、都心の天然温泉の一番風呂をゆっくりと満喫。不忍池周辺の観光めぐり参加者は十二名。ホテルの近くに事務所があり、この周辺を熟知している松枝会長がガイド役。九時半ホテルのマイクロバス五分で根津神社へ。同境内をゆっくり散策後、夏目漱石旧居跡（猫の家）を通過して西片町の上越学生寮発祥の地周辺を確認。続いて松枝会長の母校・東大構内に正面から入り、赤門、安田講堂、三四郎池（心字池）を巡って竜岡門から出る。春日局の住居跡・麟祥院に寄る。ここは東洋大学の前身、哲

学館発祥の地でもある。この後、三菱資料館を見学して旧岩崎邸庭園へ。いずれも高田藩主・榊原家の江戸屋敷跡としても有名。昼食は東天紅で中国料理。最後に不忍池を散策後解散となった。

